老朽原発うごかすな！ニュース
第１０６号
発行・老朽原発うごかすな！実行委員会
［連絡先］
090-1965-7102

7月28日、高浜原発1号機の前に電力は足りています！

同じ歳の高浜1号と直接対面

いざ、高浜原発へ！（7月28日、音海展望台）

高浜原発1号機と私は同じ歳の４９歳です。この１９７４年製の老朽原発に「無理して動くな！」と伝えるため、神戸から7月２８日の抗議行動に参加しました。

高浜原発と神戸の直線距離は約９０キロ、事故が起きたら数時間で放射能プルームが到達します。琵琶湖が放射能に汚染された場合は神戸を含む１５００万人弱の関西圏の飲み水が汚染されてしまいます。

福島第一原発事故は収束とは程遠く、日本政府は放射能汚染水を海に捨てようとさえしています。そして、被害者や避難者の人権も蹂躙されたままです。このようななか、４９年モノの老朽原発の再稼働などとんでもありません。

省エネ＋再エネ１００％というゆるぎない「解」

関西では6月に再生可能エネルギーの出力制限が行われ電力が足りていることが明白になりました。また再エネの価格は安くなる一方ですが、原発は安全対策費や放射性廃棄物処理費用がかさみ、価格は高くなる一方です。

デマンドコントロールといって、電力の供給力によって電力価格を変動させる仕組みがあります。ユーザーは電気代を抑えるために、価格の安い時間帯に電力を使うようになり、結果として省エネが進みます。この仕組みは欧米で約１０年前から取り入れられており効果も実証されています。そして省エネ＋再エネ１００％は、人類存亡の危機である気候変動をくい止めるための実効性の高い取り組みです。

老朽原発の再稼働はエコサイド

「省エネ+再エネ１００％」という正解を尻目に、高浜町の人びと、関電の職員、多くの人びとを放射能汚染の危険に曝す、高浜1号機の再稼働はエコサイド(※)というべき暴挙です。

一部の政治家や関電トップの利益のために、なぜ私たちの人生が脅かされなければならないのでしょうか？怒りが込み上げてきます。若狭の美しい海、琵琶湖の水、自身や人びとの命と健康を守るために全原発の廃炉を目指して、これからも声を上げ続けていきたいと思います。

（※）エコサイドとは

「エコ」と大量虐殺を意味する「ジェノサイド」を組み合わせた言葉。広範囲あるいは長期間の被害が予測されているにもかかわらず、故意に環境を破壊する行為。国際犯罪として位置付けようとする動きもある。

（神戸市　松本なみほ）

高浜１，２号機を前に申し入れ

高浜原発1号機再稼働・中止の申し入れ
炎暑のなか現地抗議行動に起つ！

７月２８日朝８時半、妹子の郷（道の駅）駐車場でMさ

んの愛車に乗り込んだ７人。「今日制御棒を引き抜いた瞬間、また落下させ、想定外の苛酷事故が起きたらどうする？」「有り得る話だよ！」「私たちは逃げることもできず最初の犠牲者になるんだね。」「１２年ぶりに動かすんだよ！何が起こってもおかしくない！」「４０年という寿命で設計された原発、４８年も超えて動かすなんて、怖い話。」「覚悟を決めて頑張ろう。それにしても暑すぎるぅ。」「私は農作業用帽子を持ってきた。」

高浜原発に向けシュプレヒコール（７月２８日）

「僕は日除けの傘！」不安・緊張感・やる気満々のごちゃ混ぜの言葉を飛び交わす。Ｓ Ｆさながら、命の危険も感じさせる原発現地での最近の抗議活動である。

日本最古の老朽原発 高浜1号、うごかすのは 無謀！超危険！

関西電力は７月２８日午後３時、運転から４８年を超えた高浜１号機を１２年ぶりに起動し再稼働させた。言語道断の暴挙である。

私たちは国と関電の暴走を止めるべく、去る７月２３日（日）、大阪関電本店を包囲する緊急集会・デモをやり抜いた。突然の呼びかけにもかかわらず、炎天下３８０人が駆けつけ、「日本最古の老朽原発、高浜１号機を動かすのは無謀！超危険！」と口々に強く訴えた。梅田駅周辺でのデモも鳴り物入りでにぎにぎしく市民に大きくアピールしてきた。

また滋賀では７月１５日（土）、１１４回目となった「脱原発市民ウォークｉｎ滋賀」を実施。新たに、福島・東京から関西に避難している方々５人が参加してくださった。「福島事故を忘れずに、ずっとこのようなデモを続けてくれてありがとう。」の１言に、私たちの地道な活動が彼女を励ますことにつながっていると実感でき、嬉しかった。みんなで福島事故は未だに終っていない！ことを再確認した。「汚染水を海に流すな！」「老朽原発をうごかすな！」「福島事故は終っていない！」２６人の参加者は関電滋賀支社前を通り、びわ湖畔まで訴えて歩いた。

私たち市民はあきらめず、一人ひとりが力を寄せ合って、原発のない安心して暮らせる社会実現のため頑張っている。私たちの声を消すことはできない。あきらめない限り負けることはない。闘いは続く。

（滋賀県　岡田啓子）

７・２８緊急舞鶴市民アクションに参加
老朽原発高浜１、２号機再稼働反対

７月２８日(金)１７時からＪＲ東舞鶴駅前で、原発ゼロ舞鶴の会主催「老朽原発高浜１、２号機再稼動反対　緊急舞鶴アクション」が開催され、約３０名が参加しました。

私たち６名は高浜原発ゲート前で「７・２８高浜１号うごかすな！抗議行動」をした後、集会に参加。舞鶴市は全国で唯一、都道府県境をまたいで高浜原発から５キロ圏内（ＰＡＺ）の地域があり、３０キロ圏内（ＵＰＺ）はほぼ全市が対象になります。

集会では、小西洋一舞鶴市議会議員から、老朽原発・高浜１号機が再稼動する前日の７月２７日、鴨田舞鶴市長に「再稼動の中止を政府、京都府、関電に申し入れるよう求める申し入れ書」を提出したこと、京都総評副議長の奥井正美さん、舞鶴母親大会会長の浅野智明（ちあき）さんの発言が続きました。

老朽原発うごかすな！実行委員会の木原壮林さんは、○４８年を超えた高浜１号機の圧力容器の脆化は日本で最も深刻、○岸田政権の「原発依存社会」への暴走は、福島原発事故の教訓を活かさず、原発にこだわり、自然エネルギーへの全面切換を怠った失政の結果、○電気は足りている、○放射線被曝を強い、子々孫々にまで負の遺産・使用済み核燃料を増やす原発を稼働させる必要は全くないことを訴えました。

（滋賀県　木戸）

JR東舞鶴駅前で、道行く人に訴える